

第78回九州数学教育会総会 並びに

九州算数・数学教育研究（大分）大会 趣意書

令和6年7月29日(月)から31日(水)までの3日間、第78回九州数学教育会総会 並びに九州算数・数学教育研究（大分）大会を大分市で開催することになりました。

本研究大会は、九州各県の小学校、中学校、高等学校及び大学等の算数・数学教育に携わる教職員が一堂に会し、算数・数学教育の充実と発展のために日頃の研究や実践を発表・協議する大会です。昭和22年に熊本市で第1回研究大会を開催して以来、毎年九州各県を持ちまわる形で開催されており、その間、多くの教職員の熱心な取り組みや各教育行政機関並びに関係各位のご理解、ご支援のもと、年々充実・発展してまいりました。

グローバル社会、知識基盤社会等と呼ばれ、個別化・流動化が加速する現代社会においては、他者と協働しながら問題を解決する力や生涯にわたって学び続ける力など、高度な知的・社会的能力が必要とされています。学校教育においては、このような社会の要請に応えるために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を意図した「令和の日本型学校教育」の構築が叫ばれています。また、生きる力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の視点として取り入れることが求められています。算数・数学教育においては、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的資質・能力を育成すること」が、学校数学における算数・数学教育全般を網羅する規範となっています。

算数・数学教育においては、社会の変革や教育改革の流れの中で、教科の特性を見失うことなく、本質的な力の育成を目指す必要があります。社会や教育界の流行に流されることなく、算数・数学教育における不易を大切にした教育を追究しなければなりません。

今回の大分大会の研究主題は「なし学ぶんか これからの未来を切り開く算数・数学教育」です。

算数・数学を学ぶ意味を考えながら算数・数学の本質を深く学ぶことで、これからの未来を担っていける子どもが育つことを願ってメインテーマとしました。算数・数学を通して未来を切り開く力をどのように培えばよいか、小学校・中学校・高等学校の各部会における研究発表、公開授業を通して、皆様とともに議論していきたいと考えています。

本県において、九州算数・数学教育研究大会は11回目の開催になります。これまでも関係各位のご理解とご協力のおかげで充実した大会にすることができました。今回の大会においても、九州各県から多数の参加者をお迎えし、実り多い大会にするべく営為準備を進めています。

皆様におかれましては、九州数学教育会総会並びに九州算数・数学教育研究（大分）大会の趣旨をご理解いただき、大会成功のためにご支援、ご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

令和5年11月吉日

公益社団法人九州数学教育会会長	添田 佳伸	(宮崎大学教授)
大分県数学教育会会長	川寄 道広	(大分大学特任教授)
大分県小学校算数教育会会長	工藤 真久	(大分市立明野北小学校校長)
大分県中学校数学教育会会長	安藤 陽子	(大分市立植田南中学校校長)
大分県高等学校数学教育会会長	渡辺 学	(大分県立臼杵高等学校校長)